

西から 東から

静商連第55回総会
民商ニュースの交流
No.6

沼津民商ニュース 10/17より

第43回沼津民商婦人部総会定期総会
たくさんさんの部員が顔を出せるような婦人部に！

総会参加28名

婦人部は7日、沼津大手町会館で第43回沼津民商婦人部定期総会を開催しました。28名が参加。萩原みどり部長の挨拶から始まり、川口三男沼津市議会議員が来賓あいさつ。婦人部の1年間の活動を報告、新年度方針を決め、新役員が選出されました。部長には昨年に引き続き萩原みどりさんが就任。萩原みどり部長のコメントを紹介します。



婦人部長 萩原みどりさん



1年間、まわりの部員の方に助けていただきながらなんとか1年を終えることができました。今期も部長という事で引き続き頑張っていきたいと思えます。今期はなるべく皆さんの婦人部の方々の行事などに顔を出せるように懇親を深めていきたいと思っています。この1年もよろしくお願ひします。

沼津民商ニュース 10/24より

共済会バスツアー in 神奈川

こういう時間ってほんとに楽しいね♪

17日、毎年恒例の共済会バスツアーが催されました。参加は満席の45名。カップヌードルミュージアム↓中華街↓アサヒビール工場見学に行ってきました。参加者の感想を紹介します。

芹澤はま枝さん

行ったことのない所にたくさん行って良かった！自作のカップラーメンはまだ食べてないけどあんな施設があるなんて知らなかった。帰りのピング大会も盛り上がり、一緒に行った友達も楽しそうにしてくれて良かったです！来年も今から予約しようかしら（笑）



廣井仁利さん・はづきちちゃん
娘と二人で参加させていただきました。普段は仕事ばかりであまり家族とゆっくりすることができない分たくさん触れ合うことができました。娘も家に帰ってから奥さんに、ラーメン作りの事やビール工場の事、一緒に参加した大人たちの事などを大笑いしながら話していました。とても大切な時間を過ごす事が出来ました。ありがとうございました。

西島正司さん

友人と3人で参加しました。中華街の事があまり詳しくないので出来れば皆で食べたかったな。アサヒビール工場の

試飲タイムもちよつと短いかな、あの時間で3杯は飲めんよ、などいろいろ言いましたが楽しかったです（笑）

沼津民商ニュース 10/31より

沼津民商共済会第32回定期総会

「より多くの人に共済を活用してほしい」

24日（月）、沼津民商共済会は第32回定期総会を開催しました。参加は35名。上條孝夫議長が進行役を務め、黒川徳明理事が開会あいさつ。佐々木真誠医師（まこと治療院）の「高血圧とコレステロール、塩分について」の講演が行われ、小川光一理事長が総会方針案、星谷矩夫会計監査から会計監査報告がされ、新役員案も含め満場一致で採択されました。今期も理事長には小川光一さんが再任されました。参加者の感想を紹介します。



秋山博則さん

みなさん、役職や運営共に非常に板についている感じがしてとてもよい総会でした。個人的にはひじを痛めているので佐々木さんに聞いてみたいと思いました。

萩原みどりさん

今期は共済会員80%達成が何よりもよかったです。今期も今加入率が80・2%とギリギリなのでもっとも増やさない！

高橋利男さん

今日の佐々木先生の講演を聞いて、普段から気にかけているが薬も飲んでいたので、一層健康には気を付けたいと感じました。納豆は夜に、青魚は朝に摂取したほうが効果的など良い話が聞けた。しかし病は気から！気持ちも大事にしていきたいです。

小川光一さん

会員本人の共済への入会もぜひして頂きたいが、こんなによい共済なので配偶者の方にもぜひ入って頂きたい！一点検診や春には大腸がん検診を行ったりと会員の皆さんの健康を活動的に守って行き



たいと思っています。バス旅行や観劇ツアーなども好評で嬉しい限り。また色々な企画を行って共済会としても交流を深めていきたいと思っています。今期もよろしくお願ひします。

沼みんSHOW経営講演会 参加28名

19日（水）商売繁盛の会・経営講演会が開かれました。講師に浅倉茂紀さんを迎えより実践的に、自身の得意とする商売のアピールの仕方を実演して頂きました。

「百聞は一見にしかず」浅倉さんの商売のケースでは実演して効果を実感して頂くことが一番のアピール方法だと話しました。講演では健康に関わる商品を紹介。参加者からは「私も使ってみようかしら」などの声が上がりました。11月20日の沼みんSHOWにむけて何かのヒントになればと思います。



沼津民商ニュース 11/7より

「会員、そして商工新聞の拡大を！」

なんでも相談、拡大行動 参加12名

26日（水）、沼津民商事務所にてなんでも相談・拡大行動が行われました。常任理事会などで山下会長は「引き続きの会員拡大と沼津は商工新聞の拡大に力を！」と呼びかけ。当日の拡大に向けて役員が一丸となって取り組みました。

役員

沼津の中田市議からの紹介。決算や記帳の要求で相談の後に入会。もう1名は元事務局員からの紹介で入会。

商工新聞

会長からの激励もあり役員一丸となって奮闘する中、常任理事の高橋利男さんは知人の美容院に訴えて1部理事の常木和信さんは同じ業者仲間と訴えて1部、柏木副支部長と多々良婦人部員は知人に訴えて1部の合計3部。会員との同時購読2部を加えて商工新聞購読5部の拡大！

共済会
会員との同時加入で増えました
婦人

全婦協の総会に向け婦人部拡大に力を注いでいる婦人部は、この日も行動に参加。高橋トシ江・山本冨理事は対象者を訪問し是非にと訴え新たに1名を婦人部に迎え入れました。



青年

新たな部員は迎えられなかったものの対象者としてしっかり対話してきました。

沼津民商ニュース 11/14より

県業者婦人商工交流会

11月3日、静岡市あざれあにて第6回業者婦人商工交流会が開かれました。沼津民商からも5名が参加。第1部ではアメリカ軍への思いやり予算を題材にしたドキュメンタリー映画「ザ・思いやり」が上映され「国民に対しての思いやりはどうなっているのか、軍隊は知らない、平和な世界を実現するために大人は努力しなければならない」などの意見がだされました。午後には展示や体験コーナーと「商売と私の生き方」についての発言がされ沼津からは安藤悦子さんが発言しました。安藤悦子さんの発言を紹介します。

原支部 安藤悦子

「子供たちの笑顔に支えられて・・・」

私は「沼津市立少年自然の家」という小・中・高校生の子供たちが主に宿泊しながら野外活動を行うのを目的とする施設で食事の提供をする仕事をしております。朝食400円、昼は500円、夜は600円でご飯と味噌汁は食べたいただけ食べることができません。入所人員は最小20、最大200人まで受けております。この施設は足高山麓を背に自然に恵まれた静かな所で、春には桜が咲き誇り、6月になると自然のせせ

らぎに無数の蛍が舞い、夏には周りの林でカブトムシ、クワガタ取り。広大な芝広場ではいつも幼稚園の子供たちの遊び声がこだまする素晴らしい施設です。その施設も40数年が過ぎ老朽化も進み耐震工事も難しいとの事や子供の人数も減少したり、近隣に新しい施設が出来たことなども重なり利用者の数も当初に比べ四分の一程度に減少。やむなく沼津市としての運営は閉鎖し民間の業者に渡すことになりました。

私が受けてから23年もの長い年月この仕事を続ける事ができたのはひとえに子供たちの「美味しかったよ！お腹いっぱい！ごちそうさま」の笑顔に支えられたおかげです。感謝しております。

施設の周りには忘れられている石仏や馬頭観音様がたくさんあり、仕事の合間を見れば手を合わせる様にしておりました。23年もの間何事もなく健康に恵まれて最後までなされる事が出来たのも石仏や馬頭観音様のおかげかと最後には周りを掃除して線香をあげ長い間の感謝の気持ちを伝えて終わりにしてきました。ありがとうございました。

ぬまづ憲法9条の会 11周年のつどい

11月3日、9条の会11周年のつどいが開かれました。1部では二胡奏者鈴木裕子さんによる演奏が会場を魅了しました。2部では五十嵐仁教授による「手のひら返しの壊憲をどう阻止するか」の講演が行われました。参加者の感想を紹介します。

北西支部 常木和信

二胡奏者の鈴木さんの演奏、たいへん素晴らしいかったです。また聴きに行きたいくらいでした。

五十嵐教授の話はともわかりやすく、また話し方も上手だなと感じました。また参加して話や音楽に触れたいと思います。



清水民商ニュース 10/3より

民商宣伝 17名参加

9月25日(日)に清水民商の宣伝を行い、17名が参加して江尻・浜田地域に相談会のチラシ1,800枚を配布しました。配布後は会員のお店で昼食を取りながら拡大・宣伝について意見交換を行いました。拡大推進委員長の高橋さんから「こういった地道な活動が実を結ぶ時がきます。民商を大いに宣伝し、会員・商工新聞読者の拡大につなげていきましょう。これからも積極的に参加のご協力をお願いします。」と訴えがありました。

秋の運動の一環として、毎月相談会を実施して、同じ中小業者の悩みをわかちあい解決し、入会へつなげていこうと計画しました。その相談会の案内を会員が自ら手まきで地域ごと配布していきます。今回は江尻・浜田地域にチラシを配布しましたが、現在、相談会の案内を入れた民商宣伝用のポケットティッシュを制作しています。次回からはこのポケットティッシュを配布する予定です。皆さんのご協力をお願いいたします。

映画「大地を受け継ぐ」上映会開催

県の婦人部や共済会の会議で映画「大地を受け継ぐ」を紹介・上映され、「すごくいい映画だった。民商会員のみんなにもぜひ観てもらいたい。」と要望が寄せられ、清水民商で9月28日に上映会を行いました。参加者は、35名で、86分の上映時間でも熱心に映像に見入っていました。

この映画は、東日本大震災の福島原発事故によって翻弄される民商会員の農家の現実を「語り」で進行するドキュメンタリーです。内容は、

『2011年3月24日、福島県須賀川市で農業を営むひとりの男性が自ら



命を絶った。原発事故を受け、地元の農業団体から農作物出荷停止のファクスが届いた翌朝のことだった。「お前に農業を勧めたのは、間違っていたかもしれない。そう息子に言い残して。」

それから四年。学生たちが訪れたこの農家の息子(樽川和也)は、母(美津代)とふたり、汚された土地で農作物を作り続けている。「福島の米や野菜は今までの値段では売れないし、売れても赤字になることはない」。農業だけで生きていくことが難しい現状だ。それでも自死した父や、先祖が代々受け継いできた土地を捨てるわけにはいかないと、彼らは土地を耕し作物を育て続けている。(映画のパンフレットから引用)

観た方の感想は

「国のやっていることは不合理と理不尽、人に対して冷たい対応だ。」

絶対に報道されない福島の現実。言葉一つ一つが、樽川さんの思い、怒り、悲しみだったりする。原発を造るときも真っ剣に反対していればよかった。他人事だった。というお母さんの言葉はすごく重たい。一人ひとりがしっかりと考えてほしい。」

全国の前発は、事故後、規制委員会の審査を受け、少しずつ再稼働に向かっていきます。しかし、福島の事故の検証はまだほとんど解明されてはいません。故郷を追われ、帰ることのできない人々や生業をなくした事業者、農家、漁師はこの事実をどう感じているのでしょうか？映画では樽川さんが言う言葉がその気持ちを表しています。「風評被害は根も葉もないことに対する被害、これは風評被害じゃない。現実なんだ。原発があつた状態である限り、それは延々と続く。」

